

第3回津島市巡回バス検討委員会 会議結果

1 開催日時

令和7年9月29日（月） 午後1時50分から午後3時20分まで

2 開催場所

津島市役所3階 市長公室

3 出席者

別紙「第3回津島市巡回バス検討委員会出席者名簿」のとおり

4 議事

- (1) ふれあいバスの通勤・通学対応実証実験
- (2) ふれあいバスのルートの見直し案
- (3) ふれあいバスの運賃の見直し案

5 会議資料

- ・資料1-1 ふれあいバスの通勤・通学対応実証実験について（津島駅～老松住宅線）
- ・資料1-2 通勤・通学対応実証実験 津島駅～老松住宅線 ルート図及び時刻表
- ・資料1-3 新設する停留所写真資料
- ・資料1-4 ふれあいバスの通勤・通学対応実証実験について（青塚駅～永和駅線）
- ・資料1-5 通勤・通学対応実証実験 青塚駅～永和駅線 ルート図及び時刻表
- ・資料1-6 新設する停留所写真資料
- ・資料2-1 第2回津島市巡回バス検討委員会でのご意見
- ・資料2-2 第2回巡回バス検討委員会 会議資料からの変更内容
- ・資料2-3 第2回検討委員会資料からの変更内容（新旧）
- ・資料2-4 Bコースルート図（案）
- ・資料3-1 ふれあいバスの運賃の見直し
- ・資料3-2 （参考）他市町村の事例

6 あいさつ

(1) 会長

- ・大変お忙しい中お集まりいただき、お礼申し上げます。
- ・こうして各地区からの代表の方にお集まりいただき、ふれあいバスの利便性を上げるためにいろいろ検討していただき、また事務局におかれては、関係各所とバス停の位置等いろいろ調整して、決めてみえると思うが、そうした皆様の協力の

もとに、ふれあいバスの利便性を高めて、1人でも多くの市民に使っていただけるような会議にしたいと思うので、お力添えをよろしくお願いしたい。

(2)磯部教授

- ・お忙しい中お集まりいただき、お礼申し上げます。
- ・今日は調整の形になってきている。できることはできるし、できないことはできないが、皆様と一緒にやってきたいと思う。よろしくお願いしたい。

7 議題

(1) ふれあいバスの通勤・通学対応実証実験

【事務局】

《資料1-1～1-6をもとに説明》

【委員】

- ・将来的には、津島駅東口の活用は考えているのか。それもきちんと詰めていただくと、もうちょっと便利になると思う。

【事務局】

- ・津島駅の開発は、まちづくり事業課が進めている。津島駅の開発を進めると、今のロータリーも変わってくるので、情報交換をしながら進めているところである。津島駅の開発とルートの見直しは一体的に考えていきたい。

【委員】

- ・東口を使うとなると、書類で簡単にすぐルート変更できるのか。この会議で変えられるのか。

【事務局】

- ・東口の話は、この会議ではあまり変わらないかもしれないが、話をして進めている。ただ情報交換は常にしているので、ここでそういったご意見があったことを担当部署に伝えることはできる。

【委員】

- ・付け加えていただけるとありがたい。

【委員】

- ・バス通学で、定期的に高校生が乗ることになるが、トラブルがあったときのフォローは、学校に対してどのようにかけてあるか。

【事務局】

- ・事前に学校とは打ち合わせをしている。31 人乗りのバスなので、朝、学生がバスに乗れなくて学校に間に合わなくなってしまうたら大変なので、事前に、どれぐらいの人が乗るかのアンケートを学校にとってもらおうと思っている。
- ・それを踏まえて、朝、津島駅から乗る高校生の量を把握して、人が多過ぎて乗れないことにはならないようにしたい。

【委員】

- ・最悪の場合は、バスが交通事故にあうと、現場検証で警察が来るまではバスは動けないので、乗っている学生を時間までに高校へ送る必要があるが、代車を出しても間に合わない。追加でテストを受けることができるのか、学生が安心して乗れるように、その辺はフォローしてほしい。

【事務局】

- ・今のふれあいバスでも同じ話で、ふれあいバスが途中で交通事故にあったときには、代車で運行することがある。
- ・今回の実証実験も、バスが故障した場合等は、代車を出してもらうことにしている。ただ、どうしても時間がかかってしまうので、そういった事故があった時の場合などを事前に高校と話を詰めていきたい。

【委員】

- ・この実証実験はとてもすてきだと思うので、周囲に話をしたいが、どの程度発信してもいいのか。地区にもいろんな広報があるので、できる限りそういうところで回覧したいと思っている。

【事務局】

- ・明日、議会で正式に実証実験の補正予算が議決されたら公になる。広報紙 11 月号に、大々的に 4 ページ使って記事を書けるが、明日以降であれば、資料に書かれている内容は、どこでお話いただいても問題ない。
- ・むしろ、皆様に周知していただいて、多くの人に乗っていただきたい。パンフレットも早めに作り、皆様にコミュニティの中で配っていただいて、積極的に使ってほしいといった口コミをお願いしたい。

【委員】

- ・デジタルチケットは、通勤・通学定期券のみか。

【事務局】

- ・定期券のみ販売する。

- ・他の市町村を見ると、回数券や定期券を販売しているところはあるが、1乗車のデジタルチケットの販売は少ない。
- ・今回どれぐらいの方が使ってくれるかも、今後本格的に導入するかどうかの基準にしたいとも考えている。

【委員】

- ・学生定期券は1ヶ月3,000円か。

【事務局】

- ・1か月ではなく、実証実験期間内で3,000円である。津島駅～老松住宅線は38日間運行するので、朝晩使うと76回利用することになり、7,600円かかるので、半額ぐらいになる。

【委員】

- ・時刻表は警察の窓口に置いているのか。警察と協力して、高齢者の方で免許を返納しに来た方に、時刻表を渡せるとよい。免許がない人は、バスに乗りたいと思うので、必要だと思う。

【事務局】

- ・今、津島警察署に置いてない。そこでPRできるよう、1度相談してみる。

【委員】

- ・学生のことを考えると、デジタル化された時刻表やルート図があると大変使いやすいと思う。

【事務局】

- ・その点も検討させていただきたい。

【会長】

- ・今、ふれあいバスで使っているルート的一部分を使うが、その周辺に従来のバス停、時刻表に載っていないバス停もある。そういったバス停には停まるのか、停まらないのか。

【事務局】

- ・この時刻表に記載の停留所にしか停まらない。

【会長】

- ・その辺がはっきりしていないと、停まらないバス停で待つ人が出てくるかもしれない。

【事務局】

- ・朝の実証実験で停まるバス停だということを利用者が見てわかるよう、バス停の表示を工夫したい。

【アドバイザー磯部教授】

- ・今回、実証実験という形でやる。合計4か月あるが、1か所あたり2か月弱なので、期間は長いようで短い。「そのうち乗るわ。」と言っていたら、乗る機会をなくすので、すぐに乗っていただきたいと思う。
- ・どういうふうによかったか、悪かったかのアンケートを実施する予定のようなので、それも積極的にご参加いただきたい。

(2) ふれあいバスのルートの見直し案

【事務局】

《資料2-1～2-4をもとに説明》

【委員】

- ・バス停の設置に難儀していると思うが、バス停の設置には道路使用や道路占用の手続きが必要なのか。

【事務局】

- ・必要である。

【委員】

- ・位置を変えようと思うと、大変な申請をしないといけないし、難儀な仕事だと思う。民地に対しては、話し合いだけでいいのか。

【事務局】

- ・民地に対しては、使用承諾書をいただいて、それを運輸支局に提示すればいい。

【委員】

- ・停留所から幅が1.5m以上ないと許可を取れないのか。狭い道路に、大きな停留所の標識は置けないので、道路上に「横断歩道」や「停止」というマークがあるように、従来のバス停ではなく、マーキングしてはどうか。

【アドバイザー磯部教授】

- ・1.5mルールについて、今、歩道は有効幅が2mほしいとなっている。なぜ2mかというと、車椅子の方同士がすれ違う幅を確保するためである。2mが無理だったら、せめて1.5mほしいということで、道路幅を確保するために、1.5mルールがある。

- ・バス停のポールがなぜ立っているかという点、バス停のポールを立てると、道路交通法によって半径 10m が駐停車禁止になる。そのためのポイントである。一般自動車から見て、どこにバス停があるかがわからないと困るので、目立たないといけない。

【委員】

- ・コミュニティバスも同じく適用されるか。

【アドバイザー磯部教授】

- ・適用される。

【委員】

- ・マーカーにすればそれは関係ないのではないか。マーカーも目立つと思う。

【アドバイザー磯部教授】

- ・目立たないといけないので、立っている停留所がいる。

【事務局】

- ・運転者からすると、マーカーが見えないので、そこがバス停とわからず、停留所の前に車を停めてしまう。そうすると、バスがバス停に行けなくなってしまうので、そういったところがある。

【委員】

- ・今は、横断歩道の 30m 前からダイヤモンドマークがあるように、道路のマークがいっぱいある。歩道にできれば車道にマークして、運転手から見えれば何とかなる。歩道は広くならないので、従来にこだわっていると、いつまでもできないと思う。

【事務局】

- ・ご意見として承る。

【アドバイザー磯部教授】

- ・右回り、左回りの話について、右回りは、別の言い方をすると、時計回りである。右回りの覚え方は、右手を内側にして回ること。左手を内側して回るのが左回り、つまり反時計回り。そういうふうに覚えると回りやすいと思う。

(3) ふれあいバスの運賃の見直し案

【事務局】

《資料 3-1 ～資料 3-2 をもとに説明》

【委員】

- ・回数券の割引等を考えてみえるが、活用方法も検討してほしい。いろいろな方法があると思うが、今流行りのポイント制等を導入して、より多く使っていただくと、点数が増えるやり方の検討もお願いしたい。
- ・回数券ではなく、定期券を毎度購入してくれるような活用の方法もお願いしたい。
- ・それを楽しみに乗っていただくやり方を導入してほしい。

【事務局】

- ・1乗車200円は高いと思われるか。ここがやっぱ一番大事だと思っている。100円を200円にすることに、抵抗はあるか、それとも、仕方がないと思うか。

【委員】

- ・仕方がないと思う。

【事務局】

- ・市として、両回りにする話をすれば、100円を200円にするのは、納得いただけるような金額か。

【委員】

- ・周辺市町村も値上がりしている。小牧市も200円である。

【委員】

- ・稲沢市も200円である。なので、津島市もそうかなと思う。
- ・実証実験のバスには、時間を作って全部乗ってみたいと思う。

【事務局】

- ・両回りにして経費が上がる中、将来的にも運行を持続していくためには、現行の100円のままだと厳しく、最低でも200円に上げざるを得ないというのが今の考えである。その時に市民の方々がどう受け取られるかがすごく大事なことだが、今の委員の皆様の反応からすると、仕方がない、ある程度許容していただける程度かなと感じた。

【会長】

- ・1回200円というのも悪くないが、いかに乗ってもらおうかと思うと、回数券や定期券の割安感があると非常に乗ってもらいやすくなると思う。そういうものを買えば、乗っていきこうとなるが、1回1回払ってまでとなると、なかなか乗りにくい気がするので、それがうまく取り入れられるといい。

【委員】

- ・回数券などの販売場所も多いといい。

【委員】

- ・病院に通院している人は、回数券があると助かる。

【委員】

- ・ふれあいバスでmanacaは使えるか。ポイントは貯まるか。

【事務局】

- ・使えるが、ポイントは貯まらない。

【会長】

- ・たくさん乗ってもらおうと思うと、回数券より、お値打ち感のある3か月や半年の定期券があるとよい。高齢者に対しても、定期券の特別感があるとよい。
- ・買っていただくことによって、これだけの方に利用していただけると事前に把握することもできる。

【事務局】

- ・実際、弥富市や日進市では、高齢者が定期券を買うときは割引する制度を導入している。そういうのも検討すべきなのかなと考えている。

【委員】

- ・車に乗れない方がより利用しやすい状況だといいと思う。

【アドバイザー磯部教授】

- ・運賃の問題はなかなか難しく、昔から学術的にもいろいろ言われている。
- ・当たり前だが、支払う側から見たときの運賃と、お金取りたい人から見た運賃が違い、そのギャップが大きいから、なかなか縮まらない。
- ・今回、定期券の話題が出たが、通勤対応していくことを考えたとき、通勤者からは高くとってもいいのではないかという考え方がある。なぜかと言うと、勤め先の企業から通勤手当を出してくれるケースが多く、通勤手当はある程度まで非課税で、会社の経費で落とせる。そういうことができるのに、安く設定する必要はないのではないかという考え方がある。
- ・おそらく、他市町村でも、一般と学生と分けて、一般の方は少し高くして、そうじゃない方は安くしているのは、そういうことが理由かと思う。
- ・そういった形で、あまり不公平がないようにうまい条件をつけて、表向きの料金はある程度高くなるが、実際の料金は低く抑えて使いやすくする手もあると思うので、参考にしてほしい。

8 その他

【アドバイザー磯部教授】

- ・道路の条件や交通の状況によってもバスが通れる道が変わってくるし、いろんな施設やお店の有無も変わってくるので、バスは定期的に見直していくことが一番大事である。
- ・津島市が素晴らしいのは、そういうのをバス会社や市役所で勝手に決めるのではなく、皆様と一緒に決めている。これは非常にいいシステムだと思うので、今後とも皆様と一緒にできたらいいと思っている。

【事務局】

- ・検討委員会の議事録は、委員名簿を含め、津島市公式ホームページに掲載して公表する予定のため、ご承知おきいただきたい。
- ・次回の開催日時は現在調整中だが、12 月末頃に開催を予定している。改めて、ご案内させていただくが、ご出席をお願いしたい。